

# 英語学会OB杯英語弁論大会開く 1位は法学部1年、鈴木恒範さん

創設100年以上の長い歴史を持つ中央大学英語学会（ESS）の第9回OB杯英語弁論大会が10月23日、Cスクエア中ホールで開かれた。

今年で9回目を迎えたこの英語弁論大会は、部員の英語プレゼンテーション能力の向上とOB会との交流を目的に開かれているもので、会場には卒業後数年の若い人から70歳近い人まで多くのOB・OGが顔を見

せ、現役の学生らとともにスピーチに耳を傾けた。

本戦を前に、ESSの1年生から3年生までを対象にした予選が行われ、それぞれが自由なテーマで書いた英文原稿を審査。予選を勝ち抜いた上位10名が先輩やOBに添削指導を受け、原稿をさらに完成度高く仕上げ、この日の本戦のスピーチに臨んだ。今回は10名のスピーチに加えて、スペシャルスピーカーの計11名によるコンテ

ストとなった。スピーチはステージの演壇の前に立つて、各自5分間で行われた。3月11日の東日本大震災による節電対策

や、長期の留学体験などさまざまな切り口でスピーチが行われ、各スピーカーは大きく息を吐いてスピーチに挑むなど、いずれも緊張を隠しきれなかったが、大きな声で練習してきた成果を十分に発揮した。

鈴木恒範さん

以下2位に「WHAT YOU STAND ON」の法学部2年、平田泰之さん（神奈川県立西湘高校出身）、3位に「Let's be proud of being Japanese」の経済学部2年、宮崎舞さん（川村高校出身）、4位に

「Under the same yellow sky」の商学部3年、曹平さん（函館ラサール高校出身）、5位に「What has embarrassed me recently」の法学部1年、幡野博基さん（茨城県立土浦第一高校出身）が選ばれた。

1位の鈴木さんには優勝

カップと賞状が、他4人には、それぞれ楯、賞状がおくられた。

優勝した鈴木さんは、「Nature and New Cultures」のテーマで自分が住む練馬区を取り上げ、特産物である練馬大根や「鉄腕アトム」「銀河鉄道999」など練馬から



以下2位に「WHAT YOU STAND ON」の法学部2年、平田泰之さん（神奈川県立西湘高校出身）、3位に「Let's be proud of being Japanese」の経済学部2年、宮崎舞さん（川村高校出身）、4位に



5人の受賞者と審査員

生まれた文化を紹介したあと、災害対策の問題について自分の考えを織り交ぜてスピーチした。

小学校4年生から3年間をニューヨークで過ごした鈴木さんは、さらに英語力を磨くためE S Sに入ったという。英語弁論大会出場は、6月に開催された1年生が発表するスピーチコンテストに次いで、今回が2回目、「O Bの方が多くて緊張しました。今はE S Sでの活動が楽しくて、今後英語がもつと武器になるように頑張りたい」と語り、素直に優勝を喜んでいました。

E S Sは、留学生も多く在籍し、留学生との文化交流や観光案内などを行い、国境を越えた友達づくりができるのが魅力のひとつで、国際的に活躍する卒業生を多く送り出している。

(学生記者 豊福三晃 11文 学部3年)

## Nature and New Cultures

Tsunenori Suzuki

Do you like the town you live in? My answer is "yes". I live in Nerima, and today I'd like to tell you something about Nerima. I made a speech at the freshmen speech contest in June and I spoke about my town, then. This time, I'd like to give you more information than the last speech. Perhaps, some people know its name, Nerima, but may not have specific knowledge about it. If you don't know well, why don't you learn about it today?

Nerima is one of the Tokyo's 23 wards and located in the northwest. It has three good points. Firstly, it is famous for agriculture. It has 342 hectares of farmland and is the largest in Tokyo's 23 wards. Have you ever heard the name of "Nerima Daikon"? Daikon is Japanese radish and Nerima Daikon is one of the varieties of it born in Nerima. This Daikon has spicy and good taste, but nowadays, few people produce Nerima Daikon because it requires hard work to raise. The main product of Nerima is another vegetable, Cabbage. Forty percent of cabbage from Tokyo is produced in Nerima. There are many vegetable farms near my house and I can buy good vegetables at low prices.

The second point is animations. The first length animation film in Japan was born in Nerima. Do you know "ASTRO BOY", "GALAXY EXPRESS 999" and "ONE PIECE"? All of these animations were produced by a famous animation company in Nerima. These days, animations have become one of the most remarkable economic resources of Nerima because a lot of animation fans visit the town. For instance, if you arrive at Oizumigakuen, the nearest station to my house, you can see a statue of "Shashou-san". It is a character in the "GALAXY EXPRESS 999" and many people visit this station to see him.

The third point is Shakujii Park. Can you see beautiful wild birds near your house? Although this park is located in Tokyo, you can see various birds and trees. Sometimes, I take my dog out for a walk there and I always see people taking pictures of birds that you can't usually see elsewhere in Tokyo. For example, swans. Swans need a long distance for landing and as this park has a long shaped pond, they use this park to land when winter comes.

Those are three good points about Nerima. But it also has some problems to solve. For instance, measures against disasters are a serious problem. Nerima is a place with a number of residences, and there are many areas filled with wooden houses. Those areas are easy to get burnt. Some people say if an earthquake as big as the Great Kanto Earthquake of 1923 attacks Nerima, about 60% of its land will be burnt and more than 300 thousand people become disaster victims. In order to avoid such a disaster, Nerima prepares special areas for their refuge areas and organizes local groups for smooth evacuating.

Nerima has some problems, but at the same time it has good points and that's why I like it. In my thought, Nerima is a place where both beautiful nature and new cultures live together. Have I changed your impression of Nerima? If you happen to hear the name of Nerima next time, please kindly remember this speech.

## 女子学生就活支援に「女性白門会」が講演会開催 演題は「女の人生選びく仕事、結婚、生きがい」

女子学生の就職活動を支援する「ウイングの会」が

10月29日、多摩キャンパス3号館3115号室で開かれた。この会は、本学卒業生の女性で構成する学生会支部「女性白門会」が毎年開催しているもので、この日は和光大学教授でジャーナリストの竹信三恵子さんが、「女の人生選びく仕事、結婚、生きがい」をテーマに講演した。

「就活が厳しいと言われる現代、内定を採ることとはもちろん大切ですが、卒業後に仕事を続けていくことはより大切です」。竹信さんは冒頭、こう口火を切って、将来を見据えた就職活動が必要と示唆し、引き続きスライドで映し出した各種データを示しながら

講演を進めた。

スライドに示された資料によると、世界各国のなかで男女の不平等を示す日本の指数は人間開発指数（HDI）が10位、ジェンダー・エンパワーメント指数（GEM）が57位。ジェンダー・ギャップ指数（GGI）が101位で、いずれも先進国中最低という。

「GEMが始まった当初（1995年）、日本の数値は27位だった。正直、悪くはなかった。それが20年経って57位にまで落ちてしまったんです。これは日本社会の怠慢によるものです」と竹信さんは言う。

日本の民間企業では、取締役役に占める女性の割合は1.8%。一方、ノルウェーでは女性の取締役が40%を下

回ってはいけないとする法律を導入したため、全体の44%が女性取締役だ。竹信さんは、日本では働く女性の66%が年収300万円以下で、女性議員数も世界の97位と少ない現状を指摘。また、日本では女性の6割

が出産で退職することから、「女性をサポートしていく仕組みをつくらないと女性は継続して働けない」と強調した。

「日本の女性は、頑張りすぎてしまう傾向にあります。その結果、うつ病になって仕事を続けられなくなつた知り合いを何人も知っています。だから、親しい先輩や仲間を広げ、自分の過ごしやすい場所をつくるこ



講演する竹信三恵子さん

とが大事。今いる場所に過剰適用しようとする、無理が生じます」

竹信さんは、このように女性が働く現状を紹介したうえで、就活を控えた女子学生に向かって仕事・会社の選び方に話を移した。

会社を選ぶ際のポイントとなる「仕事と家事の両立ができるか」について、竹信さんは「その会社に聞くより、そこで仕事をやる先輩や知人に取材することをすすめます」と指摘。「『育児休業制度はどうですか？』といきなり会社に聞くのはすすめない」と重ねて述べたうえで、「自分の力で情報をとる。これが社会人の第一歩です」と強調した。

また、「自分を安売りすると後悔する」「女性を活かしてくれるかどうかで会社をみる」などと女性にとつての就活の心構えを説いた。転職に際しては、「転

職先を決めてからする」として、先の見通しがいついてから退職することが大事だと指摘。加えて「会社のために自分は何かできるかをきちんと言うことが大事」と述べた。

竹信さんは、仕事の概念について「仕事って『かっこいい自己実現』じゃない。人が必要とすることを探してお金をもらい、それで自身の生活を支えるという単純なこと」と解説。ただ、「無理をしないこと。健康を壊すほど働くことはありません」と述べ、自分自身を大

切にするようにアドバイスをした。

そして自立観について「自立とは、困ったら『助けて』と言える力。ヘルプと言える力」と説明し、選挙権をフルに行使することにも言及した。また先を見据えて生きることの大切さを指摘したうえで、「いずれは焼き場（火葬場）に行くことを考え、あの時やっておけばよかったと思うんだったら、今やることです。棺おけからの出発です」と強調した。

最後の竹信さんは、これからの女性が男性に求めるものは「3高（高収入、高身長、高学歴）から3C（Communicative, Convenient, Cooperative）へと変わるべきだ。共に働き、励まし合うパートナーになることで、新たな時代を切り切る家庭が築かれるだろう」と述べた。

会場の教室には多くの女子学生が詰めかけ、講演後の質疑応答までメモをとりながら熱心に聞き入っていた。

（学生記者 鈴木あきほ 11月12日）  
 法学部2年

## NHPの学生4名が蓮舫大臣を表敬訪問 「女性に対する暴力をなくす運動」の一環

学生団体「中央大学ノンハラスメント・プロジェクト（通称・NHP）」の学生4名と中央大学ハラスメント防止啓発運営委員長の中西又三法学部教授が11月

9日、東京・千代田区霞が関の中央合同庁舎4号館に、蓮舫内閣府特命担当大臣（男女共同参画）を表敬訪問した。

2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されるのを前に、日頃から「交際相手からの暴力の防止啓発」に取り組んでいる中央大学のNHPが内閣府から

招かれたもので、蓮舫大臣と約20分間、懇談した。

表敬訪問したNHPのメンバーは、法学部4年、秋山人さん（中央大学附属中京高校出身）▽商学部4年、高木慶則さん（鎌倉学園高校出身）▽法学部3年、鈴木寛子さん（錦城高校出身）▽法学部1年、米山舞花さん（中央大学附属高校出身）の4名。

NHPは学生主体の有志団体で、中央大学ハラスメント防止啓発委員会と協働で活動を行っている。毎年秋に一週間行われる「ハラスメント防止啓発キャンペーン」では、準備、運営を学生主導で行い、学生目線による身近なハラスメント問題について図書館一階ロビーで展示を行っ



蓮舫大臣（右端）に活動内容を報告する中西教授とNHPの4名

たり、デートDVやセクシュアル・マイノリティー等をテーマにしたフォーラムシアターを実施している。また、今年10月28、29



蓮舫大臣（前列中央）との記念写真

両日に東京・渋谷の東京  
ウイメンズプラザで開かれ  
た「平成23年度東京ウイメ  
ンズプラザフォーラム」に  
参加。29日に、メンバーが  
友人らから聞いた実体験を  
基に構成した「現役大学生  
によるデートDV劇」を披

露した。

このように現役大学生が、  
大学と協働してハラスメン  
ト防止啓発活動に取り組ん  
でいることが内閣府に評価  
された。

蓮舫大臣との面談では、  
まず中西教授がNHPの活

動について「大学からの呼  
びかけではなく、学生が主  
体となって活動することに  
より、デートDVを含むハ  
ラスメントについて他の学  
生が知る良いきっかけに  
なっている」と報告。その  
うえで「蓮舫大臣がこのよ  
うな取り組みを評価された  
ことは、学生の勇気を一層

高め、他の学生の意識を高  
めることになる」と感謝の  
意を述べた。  
また学生メンバーからも、  
実際の活動について具体的  
に報告した。  
蓮舫大臣からは「中央大  
学では、男子学生が取り組  
んでいることに感心させら  
れた」と評価を受け、「女性、

男性、両方の視点が大切で、  
こういった学生の活動を全  
面的に応援する」とエール  
が送られた。  
この日は、中央大学のほ  
かに武蔵野美術大学も蓮舫  
大臣を表彰訪問した。  
（学生記者 梶原麗奈 11年）  
共政策研究科修士1年）

## 「総合3位を目指す」選手に熱い声援 箱根駅伝を強くする会が激励会を開催

「中央大学箱根駅伝を強  
くする会」主催の選手激励  
会・会員懇親会が11月21日、  
上野精養軒で盛大に開かれ  
た。1カ月余りに迫った正  
月2、3両日の「箱根駅伝」  
を前に、この日は熱烈な中  
大駅伝ファンはじめ、大学  
関係者らが多数出席、箱根  
駅伝で「総合3位」を目指  
す駅伝選手に熱い声援を  
送った。

冒頭、強くする会の上

岡君義会長が開会の挨拶。

「10月の出雲駅伝では9位  
と不本意な成績だった。11  
月の全日本大学駅伝を大変  
危惧していたが、総合5位  
という結果に安堵した」と  
述べたうえで、「チームの  
総合力で上位を目指す」と  
いう浦田監督の指導が、日  
の目を見たのではないかと  
チーム力の底上げに期待  
を込めた。

また、上岡会長は「駒澤、

東洋、早稲田の）上位3校  
を破るのは容易ではないが、  
選手たちの箱根への期待と  
強い信念を感じた」と分析。  
「箱根駅伝前の最後の合宿  
で、力と自信をつけて箱根  
に臨んでほしい」と選手た  
ちを激励した。

次いで、陸上競技部部長  
の井上彰法医学部教授が挨拶  
に立ち、「箱根駅伝では3  
位以内を強く望んでいる」  
と述べ、選手たちに一層の



挨拶する上岡君義会長

奮起を促した。これらの激励の言葉を受けて、答礼の挨拶に立った陸上競技部駅伝の浦田春生監督は、「6月の不調から夏以降は、4年生を中心にチームの向上に取り組んだ。全日本大学駅伝ではよいレースができた」と振り返った。箱根駅伝に向けて

は「チームが100%力を出し切れれば、3強と呼ばれる東洋大学、早稲田大学、駒澤大学も崩せる」と意気込みを語った。

（3強の一角の）早稲田の背中もみえてきた。1人1人が1秒でも早く襷を渡そうという気持ちで走り、3強を崩すことを目指す」と宣言し、決意を新たにした。

この後、久米薫主務が4年生から順番に選手を紹介。会場のあちこちから「頑張れよ」「頼んだぞ」の声援が飛んだ。乾杯の発声で懇親会へと移り、あちらこちらで選手を囲み、賑やかな会話が始まり、交流の輪が広がった。

懇親会の最中、福原紀彦総長・学長が所用のために遅れて会場に到着。挨拶に立ち、11月6日に総長・学長に就任したことを出席者に伝えるとともに、「中央大学125年の伝統を襷に



答礼挨拶で「3強も崩せる」と語る浦田監督

かえて頑張つてほしい」と述べて、選手たちの活躍に期待を示した。

最後に応援団リーダー部、チアリーディング部、ブラスコー部が披露する校歌、

（学生記者 荻原睦II法学部3年）

